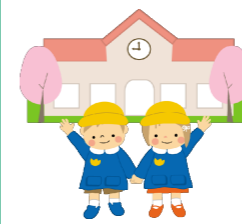




2024年度 年主題 〈さあ、漕ぎだそう 奏でよう〉

0歳児 4月主題「はじめまして」
1・2歳児「よろしくね」
 月のねがい
 ◎神さまからお預かりしている大切な存在として生まれる (0)
 ◎新しい環境の中で保育者や友だちに出会う (0)
 ◎春のひびきや風に心地よさを感じる (0)
 ◎保育者と一緒に祈ったり賛美する中で、心地よさを感じる (1.2)
 ◎であいやつながりを感じて、安心して過ごす (1.2)
 ◎春の自然にであって喜ぶ (1.2)

3・4・5歳児 4月主題 「出会い」
 月のねがい
 ◎進級児も進級児も新しい出会いの中で、毎日祈りと賛美をする生活が始まる (3)
 ◎好きな保育者、人、遊び、場所を見つけ、安心して遊び始める (3)
 ◎花、草、砂、虫、春の自然に触れながら遊ぶ中で、やってみたい気持ちが芽生える (3)
 ◎日々、賛美や祈り、聖書を通して神さま、イエス様に愛されていると感じる (4.5)
 ◎新たに会う保育者や友だちとの関わりの中で、また、新たな環境の中で安心して過ごす (4.5)
 ◎芽吹く季節を感じ、自然の力と美しさを楽しむ (4.5)



新年度スタート!

寂しいお別れがありましたが、4月には新しい出会いを楽しみに、いよいよ新年度がスタートしました。子どもたちと楽しいこと、嬉しいこと、悔しいこと、悲しいことを分かち合いながら、共に成長できる一年になればと思います。今年度も引き続き、ご理解とご協力のほどどうぞよろしくお願い致します。

さて、1日に新入園児を迎えて1週間が過ぎました。もちろん泣き声も聞こえてきますが、しばらくすると、その声が笑い声に変わっています。子どもたちの順応性の高さは本当に驚かされます。

さて、実は新入園児の保護者の方の中に、私が明朗幼稚園(当時)の2年目に受け持ったお子さんが、お父さんとして帰って来られました。この2年目という



年は、ちょうど私は25歳!!。それも、結婚という節目の年でもあり、クラスの子どもたちが披露宴に来てくれたことを思い出します。その子はとても恥ずかしがり屋の男の子でした。年長のお兄ちゃんたちが大好きで、お兄ちゃんたちにいつもくっついて遊んでいた記憶があります。持ち物もお母さんのすべて手作りでした。それを恥ずかしそうに見せてくれたことも懐かしい記憶です。そんな男の子が、お父さんとして帰って来て久々の再会です。覚えているかわかりませんが、お父さんの姿もとても楽しみです。

子どもたちも保護者の方とも、いろいろな出会いが今年もあるのかと思うと、本当にワクワクします。どうか皆さんも、子どもたちを通じてのこども園生活を思いっきり楽しんでください。私たちも微力ながら、子どもたちの健やかな育ちに関わらせていただき、心から皆さんの子育てを応援してまいります。

主任 森山

今月の聖句

「新しい歌を主に向かって歌え」

詩篇96:1

2024年度という新しい年度を迎えました。園の中では進級する子どもたちもいれば、こども園という新しい環境に初めて仲間入りする子どもたちもいます。そこには期待もあれば、不安もあることでしょう。大人であれ、子どもであれ、何事も新しい事を何か始める時には、似たような思いになります。

今月の聖句詩篇96篇も、実はそういう新しい始まりの中で生まれました。この歌が生まれたのは、イスラエル人がバビロンに捕囚とされていた70数年後でした。故郷を追われ、祖国を失い、やっと帰ることが出来るのです。もう世代も変わっていたことでしょう。彼らはその新しい始まりを心待ちにし、期待に胸膨らませていたのです。この詩篇にはそのような背景があります。まさに、今まで歌ったことのないような神を称える歌を、自ら味わって歌うことができるようになったのです。

子ども園の中で、新年度の始まりは同じような思いを抱かせることでしょう。子どもたちにも、その保護者にも、そして園の先生方にも、「さあ、新しい一年が始まる」という強い思いを抱かせることだろうと思います。その経験の一つひとつの中に、あるいはその背後に、人知を超えた神さまの取り計らいがあります。私たちがなかなかそのことに気付かなくても、このお方は「万事を益となさる」神です(ローマ書8:28)。きっと、この一年も、子どもたちの成長に必要なことを全て備えてくださることでしょう。大きな期待をもって、子ども園の中に、そして神さまの御手の中に飛び込んでほしいと願います。

西之表基督教会協力牧師 池田基宣

4月の行事予定

9日(火)	始園式
13日(土)	入園式・クラス会(親子で降園)
未定	田植え
20日(土)	役員会
27日(土)	親子遠足・父母会総会

5月の行事予定

9日(木)	弁当日
17日(金)	4~6月誕生会
20~24日	フリー参観週間
〃	家庭訪問
21日(火)	交通安全教室
22日(水)	避難訓練
23日(木)	前期内科検診
25日(土)	役員会
30日(木)	弁当日



入園式



田植え



お母さんはきれいな空気のようにやさしい愛を一日じゅう注いでいる。あたたかき空気のようにうれしい愛を一日じゅう吸っている。どちらも気がつかずに

空気 河野 進

交通安全教室



親子遠足



令和6年度新学期がスタートしました!

私たちが保育の中で大切にしたいもの

☆一人ひとりを大切に

子どもたちは神さまから命を与えられ、愛されているかけがえのない存在です。その個性と人格をありのまま受け止め、尊重することが第一歩です。信頼関係を築くなかで、子ども自身が自分を信じ、自分らしい歩みをはじめることが出来るように、絶えず応援したいと思います。

☆知りたい、やってみよう!!

子どもが夢になって、生き生きと遊ぶ事は「生きる力」に繋がります。工夫したり、悩んだり、納得するまで繰り返す中で、思考力や騒動力そして、「意志」が育まれます。好奇心や探究心を大切に受け止め、子どもと共に心を動かしていきたいと願っています。

☆友だちっていいな!

友だちと遊ぶなかで、子どもは自分と他者の違いを知っていきます。たくさんのおつきあいや葛藤を通して、悩み、考え、やがて理解し合い、「共に生きる」ことを学んでいきます。認め合い、力を合わせることの楽しさ、喜びを味わうまでの道筋を大切にしたいと思います。

☆神さまの恵みを知り、世界に目を向ける

自然の美しさや不思議さに気づき、その恵みに感謝する心を育みます。けれども、世界に目を向けるとき、現実には人と自然との関係や、国と国との関係に多くの課題があります。人と自然との調和、世界の平和に、私たちがどう貢献できるのか、共に考え、祈り、やがて行動できる人になりたいと願います。

あさひがキラリとひかっただけ
 ことがチチチとうたいだす
 かみさまのつくられたこのせかいには
 なんてなんてうつくしい

幼児賛美歌Ⅱより

共に育ち合い喜びあえる生活

窓から見えるいつも変わらない風景。あかい屋根とみどりのお家に砂場やブランコたち。新芽が出始めたアコウ、ガジュマル、クスノキ...。新しく仲間入りした小さなお家や色とりどりの花々も、新しいこどもたちを歓迎しているようです。ご入園、ご進級おめでとうございませす。改めて続くご縁と新しいご縁に心から感謝し、子どもたちの健やかな育ちを共に願ひ、祈りを重ねていきたいと思ひます。

本年度のキリスト教保育の年間主題は、「さあ、漕ぎだそう 奏でよう」が示されました。コロナ禍では、行事や活動に少なからず知恵と工夫が求められましたが、改めて、子どもにふさわしい生活とは何かを考え保育に向かいたいと思ひます。新しいワクワクした世界へ力強く漕ぎ出し、自分を十分に発揮し、生き生きと奏でていきたいという願ひです。年間主題は保育目標というものでなく、日々保育を営む中で、常に「立ち返る場所」として位置づけ、日々歩んでいきたいと思ひます。

さて、新入園の保護者の皆様のために、改めて本園が大切にしている子どもが豊かに育つための栄養素をお伝えしたいと思ひます。子どもの育ちには、「タイム・タンク・タイヘン」が必要だと考えております。保育活動や行事で味わう様々な体験(吸収)。未知の世界へ興味・関心を寄せる探検(探索)。そして、少し大変(克己)なことにも挑戦する意欲。今年もこのキャッチフレーズで保育者も共に育ち合えればと願ひしています。また、子どもたちに園生活を健康に楽しく過ごすために目指すものとして、「早起・早起・早起・朝ごはん・できれば朝ウンチ」を勧めたいと思ひます。そして、心の平安と育ちのために「ありがとう・ごめん・ごめんなさい・だいじょうぶ」が大切だということに常に伝えていきたいと思ひます。嬉しい気持ちになる言葉「ありがとう」。静かな気持ちになる言葉「ごめん」。元気が出る言葉「だいじょうぶ」。キリスト教保育に欠かせない愛の言葉だと思ひます。

集団生活を初めて経験する子どもたちにとって、園生活は期待と不安の混じったものではないでしょうか。初めての環境は大人でも緊張します。何より「だいじょうぶだよ!」「泣いてもいいよ」という言葉が安心へと導きます。「わたしは見えるものではないよ、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」と聖書にありますが、神さまが与えて下さるこの環境の中で、共に喜ぶ生活を目指して参ります。子どもたちがあまの「自分」をしっかりと生きていけるよう祈りつつ、保護者の皆様と心を込めて寄り添うことができますよう努力してまいります。

園長